

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成23年11月4日(2011.11.4)

【公開番号】特開2010-163500(P2010-163500A)

【公開日】平成22年7月29日(2010.7.29)

【年通号数】公開・登録公報2010-030

【出願番号】特願2009-5261(P2009-5261)

【国際特許分類】

C 0 9 B 67/46 (2006.01)

C 0 9 B 67/20 (2006.01)

C 0 9 D 17/00 (2006.01)

C 0 9 D 11/00 (2006.01)

G 0 2 B 5/20 (2006.01)

【F I】

C 0 9 B 67/46 B

C 0 9 B 67/20 L

C 0 9 D 17/00

C 0 9 D 11/00

G 0 2 B 5/20 1 0 1

【手続補正書】

【提出日】平成23年9月16日(2011.9.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

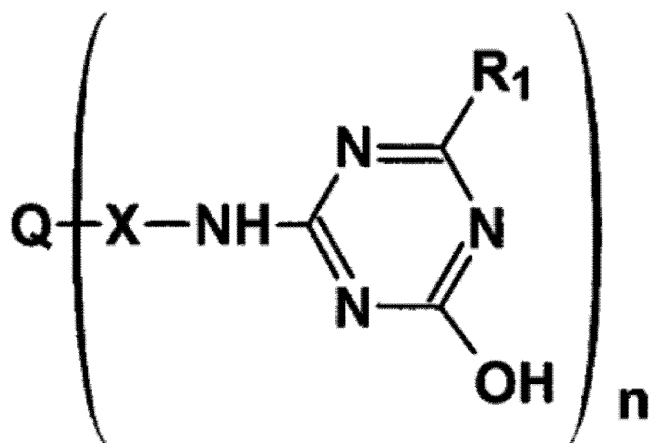
【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも顔料、分散剤、溶剤および有機色素誘導体または複素芳香族環誘導体(D)からなる顔料組成物であって、有機色素誘導体または複素芳香族環誘導体(D)が下記一般式(1)で示される有機色素誘導体または複素芳香族環誘導体(D1)と下記一般式(2)で示される有機色素誘導体または複素芳香族環誘導体(D2)とを含み、D1:D2の重量比が5:95~40:60であることを特徴とするカラーフィルタ用顔料分散体。

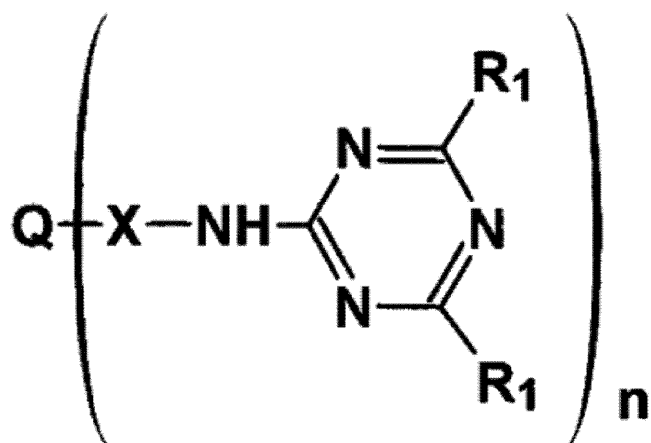
一般式(1):

【化 1】



一般式 ( 2 ) :

【化 2】



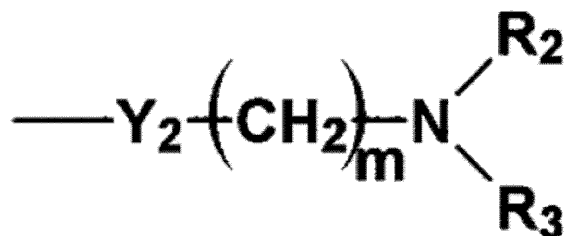
式中の記号は以下の意味を示す。

Q ; 有機色素残基、またはアントラキノン残基、または置換基を有してもよい複素環、または置換基を有してもよい芳香族化合物残基

X ; 直接結合、 $-\text{CONH}-\text{Y}_1-$ 、 $-\text{SO}_2\text{NH}-\text{Y}_1-$ 、または $-\text{CH}_2\text{NHCOCH}_2\text{NH}-\text{Y}_1-$

( $\text{Y}_1$  ; 置換基を有していてもよいアルキレン基またはアリーレン基)

$\text{R}_1$  ;



( $\text{Y}_2$  ;  $-\text{NH}-$ 、または $-\text{O}-$ )

( $\text{R}_2$ 、 $\text{R}_3$  ; それぞれ独立に置換もしくは無置換のアルキル基または $\text{R}_2$ と $\text{R}_3$ で少なくとも窒素原子を含むヘテロ環を形成していてもよい。)

$m$  : 1 ~ 6 の整数

$n$  : 1 ~ 4 の整数

【請求項 2】

顔料と有機色素誘導体または複素芳香族環誘導体 ( D ) の比率が 100 : 0.1 から 100 : 100 であることを特徴とする請求項 1 記載のカラーフィルタ用顔料分散体。

【請求項 3】

分散剤が芳香族カルボキシル基を有する分散剤 ( A ) で、芳香族トリカルボン酸無水物 ( B1 ) 及び / または芳香族テトラカルボン酸無水物 ( B2 ) と水酸基を有する重合体 ( C ) を反応させてなる化合物である請求項 1 または 2 記載のカラーフィルタ用顔料分散体。

【請求項 4】

請求項 1 から 3 いずれか記載のカラーフィルタ用顔料分散体からなるカラーフィルタ用顔料インキ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0142

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【 0 1 4 2 】

## [ 実施例 2 ]

実施例 1 において P i g m e n t G r e e n 3 6 を P i g m e n t R E D 2 5 4 ( イ  
ルガフォアレッド B - C F : チバ・スペシャルティ・ケミカルズ製 ) に変えた以外は同  
様にして顔料分散体を得た。

## [ 実施例 3 ]

実施例 1 において P i g m e n t G r e e n 3 6 を P i g m e n t Y e l l o w 1 5  
0 ( E 4 G N : ランクセス製 ) に変えた以外は同様にして顔料分散体を得た。

## [ 実施例 4 ]

実施例 1 において有機色素誘導体 ( D 3 ) を 0 . 1 部、有機色素誘導体 ( D 4 ) を 0 .  
9 部に変えた以外は同様にして顔料分散体を得た。

## [ 実施例 6 ]

実施例 2 において有機色素誘導体 ( D 3 ) を 0 . 1 部、有機色素誘導体 ( D 4 ) を 0 .  
9 部に変えた以外は同様にして顔料分散体を得た。

## [ 実施例 8 ]

実施例 1 において分散剤 A 1 を K 1 に変えた以外は同様にして顔料分散体を得た。

## 【 手続補正 3 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 4 3

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

## 【 0 1 4 3 】

## [ 実施例 9 ]

実施例 4 において分散剤 A 1 を K 1 に変えた以外は同様にして顔料分散体を得た。

## [ 実施例 1 1 ]

実施例 1 において分散剤 A 1 を A 2 に変えた以外は同様にして顔料分散体を得た。

## [ 実施例 1 2 ]

実施例 4 において分散剤 A 1 を A 2 に変えた以外は同様にして顔料分散体を得た。

## [ 実施例 1 4 ]

実施例 1 において分散剤 A 1 を A 3 に変えた以外は同様にして顔料分散体を得た。

## [ 実施例 1 5 ]

実施例 4 において分散剤 A 1 を A 3 に変えた以外は同様にして顔料分散体を得た。

## 【 手続補正 4 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 4 5

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

## 【 0 1 4 5 】

【表 1】

	D3/D4 比率	初期粘度	経時粘度(25℃)		顔料
			10日	60日	
実施例1	20/80	8	8.5	8.5	Pigment Green 36
実施例2	20/80	6	6	6.5	Pigment Red 254
実施例3	20/80	11	10.5	11	Pigment Yellow 150
実施例4	10/90	9	9.5	10	Pigment Green 36
実施例6	10/90	7	8	8	Pigment Red 254
実施例8	20/80	10.5	10.5	10.5	Pigment Green 36
実施例9	10/90	11	12	11.5	Pigment Green 36
実施例11	20/80	10	10.5	10.5	Pigment Green 36
実施例12	10/90	11	12	12	Pigment Green 36
実施例14	20/80	10	10	10.5	Pigment Green 36
実施例15	10/90	11	12	12	Pigment Green 36
比較例1	0/100	10	15	40	Pigment Green 36
比較例2	100/0	ゲル化	ゲル化	ゲル化	Pigment Green 36
比較例3	80/20	30	ゲル化	ゲル化	Pigment Green 36
比較例4	0/100	8	14	50	Pigment Red 254
比較例5	100/0	ゲル化	ゲル化	ゲル化	Pigment Red 254